

現地を訪問して思うこと

【匿名希望】

震災から 2 年半を経過した被災地では・被災地視察、支援の為に訪問し、消費をしていく人の数も減少してきている現状において、まだまだ復興半ばであり、被災地が忘れ去られていくことが一番避けたいこと。その危機感から、被災地を見てもらう、被災の話を知ってもらい、そして、自分たちが生産した物を購入、消費してもらうという

一連の支援が被災者にとって、一番、前向きになれる支援だということを実感した。

今回のツアーに参加するにあたり、現地に行かなければ、被災地の現状は分からないという思いで参加させていただいたが、「被災地の現状を現地に見に来て欲しい」という思いがこれほど強いとは想像していなかった。

又、震災から現在までを語られた被災された校友のご夫妻のそれぞれの考え方、葛藤についても、興味深いものであった。

今後、被災地では、建物の基礎だけの空き地が、一見すると地方の寂れた町のような印象しか与えなくなっていくであろうから、特に、その土地を初めて訪問する際には、語り部の方や被災された方のお話を聞かせていただく機会を持つことが被災地を知る上で必須となるであろう。